

中央大学父母連絡会

Kusa no Midori

巻頭特集

FOCUS! 商学部

草のみどり

3

2021 March
Vol.324

2021年3月号



CONTENTS

特集

Special feature

02 FOCUS! 商学部



巻頭のことば
文学部教授／杉崎 泰一郎

10 学部情報①
法学部／やる気応援奨学金Report
法学部政治学科2年／水呉 真侑子
法学部だより
法学部事務室／織戸 麻美

12 学部情報②
経済学部／経済学部から世界をひらく
経済学部経済学科3年／井上 夕輔
経済学部だより
経済学部事務室／芝沼 康寛

14 学部情報③
商学部／私の商学部LIFE2020
商学部商業・貿易学科3年／今川 実南
商学部だより
商学部事務室／池葉 咲耶

16 学部情報④
理工学部／理工の最先端研究に迫る！
理工学研究科情報工学専攻
博士課程前期課程1年／前川 美里
理工学部だより
理工学部特任教授／藤井 真也

18 学部情報⑤
文学部／文学部生のリアルな！学生生活
文学部人文社会学科社会学専攻4年／塩野 峻平
文学部だより
文学部日本史学研究室

20 学部情報⑥
総合政策学部／プロジェクト奨学生の眼
総合政策学部政策科学科4年／谷本 彩
総合政策学部教授／加藤 久典
総合政策学部だより
総合政策学部国際政策文化学科4年／大石 倫門

22 学部情報⑦
国際経営学部／世界を動かす人になろう
国際経営学部国際経営学科2年／杉山 拓海
国際経営学部だより
国際経営学部教授／中野 純司

24 学部情報⑧
国際情報学部／テクノロジーと法の未来へ
国際情報学部国際情報学科2年／藤山 勇愛美
国際情報学部だより
国際情報学部教授／飯尾 淳

26 わたしたちのゼミへようこそ
総合政策学部政策科学科3年／鶴飼 翔
総合政策学部国際政策文化学科3年／河内 紗英
総合政策学部教授／村上 和賀子

28 まるちあぐる
法学部准教授／玉置 敦彦

30 GO GLOBAL 中央から世界へ。
国際センターNEWS
理工学生の国際活動報告
理工学部人間総合理工学科4年／森田 有哉

32 キャリアインフォメーション

36 Messages from OB/OG
楽天株式会社 グループ人事部採用推進課
新卒採用グループ／大河原 歩

38 中スポPLUS
スケート部

41 学友会 文化系サークル紹介
理工学部写真会

42 ボランティア通信
法学部国際企業関係法学科4年／山本 聖菜
法学部国際企業関係法学科4年／吉田 圭吾
理工学部物理学科4年／友成 陽祐

44 学生部掲示板

46 大学からのお知らせ

47 CAMPUS NEWS

49 FUBOREN NEWS
父母連絡会事務局・その他支部からのお知らせ

オススメ書籍紹介

草のみどり
2021年3月号(通巻第324号)
2021年3月1日発行

発行：中央大学父母連絡会
編集：『草のみどり』編集委員会
印刷：ライオン企画株式会社

[本誌に関するお問い合わせ]
〒192-0393
東京都八王子市東中野 742-1
中央大学父母連絡会事務局
☎ 042-674-2161

表紙のイラスト：正門側並木越しに
見える5号館



Be Ahead of the World
**世界を動かす
 人になろう** vol.06

はじめに

こんにちは。私は、この学部の1期生として国際経営学部国際経営学科に在籍し、勉強に励んでおります。この学部の最大の特徴は、英語を主として授業やコミュニケーションが行われていることです。私は、他学部にはあまりないこの機会を存分に活用し、毎日英語に囲まれた学生生活を送っています。さらに、この学部では英語の能力を鍛えるためのプログラムや、先生方に質問できる機会がたくさん用意されています。たとえば「アカデミックサポートセンター（ASC）」では、時間割ごとに担当する先生が配置され、自由に質問や会話をすることができ、空間が用意されています。授業で扱っている英語がわからず助けが必要ときや、英語で雑談がしたいときなどにも



今留学で一番利用した学習場所と休憩場所を兼ね備える場所

**カリフォルニアへの留学で
 得たこと**

その一つに、この学部の特徴である留学があります。通常では1年次の夏に、大学が指定した留学先から選り、3〜4週間の短期留学をします。私は、カリフォルニア州にあるカリフォルニア大学デイビス校のESTP



ヨセミテ国立公園の大自然の中で

プログラムに参加しました。現地での学習は、ディスカッションを主とした相互的な授業でした。そのなかで、現地の学生にインタビューをする必要のある課題が出ました。そのタスクをこなすことよって、英語で他人に話しかける勇気が養われ、心の強さを鍛えることができました。見知らぬ外国人にいきなり話しかけてコミュニケーションすることは、日本にいてもアメリカにいてもなかなか経験できない貴重なことなので、とても記憶に残っています。そして、そのプログラムのなかで、任意かつ費用自己負担で参加できる、2泊3日でのヨセミテ国立公園散策がありました。巨大な滝や広大な森林など、アメリカならではの大自然を目の当たりにし、その自然のなかで味わっ

**英語を用いて
 培った学びと
 新しい経験**

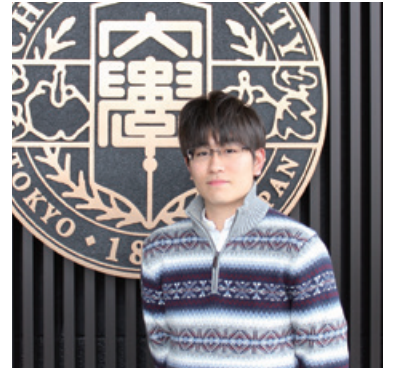
すぎやま たくみ
杉山 拓海

国際経営学部国際経営学科2年
 私立関東学院六浦高校（神奈川県）出身

たきれいな空気を今も思い出します。私はこのプログラムに参加して本当によかったと思っています。留学では勉強だけでなく、このような自然豊かな場所を訪れることができる機会もあります。今回の留学では、普段の生活では決して気づくことができない体験をすることができました。

国際経営学部ならではの学び

1期生は先輩がおらず、授業も必修以外は手探りの状態で選ぶこととなります。しかし、みんなしっかりと授業を吟味して選択し、勉強に励んでいます。この学部の最大の特徴であり、他学部と区別される点として挙げられるのは、英語の運用能力を向上させることと同時に、専門科目を英語で習い、英語で発信することです。



グローバル館の入り口にある中央大学の紋章前での写真

学部が指定した必修科目、たとえば経営や経済、統計に関する科目はすべて英語で行われ、試験も英語で完結します。1期生なので先輩から教わることはできません。母語ではない言語で専門的なことを学習するので勉強量はかなり多くなります。しかし、英語で学ぶことにより英語特有の、または先駆的なニュアンスや意味などを直接受け取ることができるようになり、海外の最新の情報や考え方を理解したりするときに、スムーズに自分のなかで整理することができると、経営や経済に関する知識がより深くなると考えています。

このほか、授業のなかで「R」や「Python」などのプログラミング言語を習う機会があります。1年次の経済学の授業ではRを、2年次前期の数量分析の授業ではPythonの基本的な機

From the Faculty of Global Management



国際経営学部
だより



国際経営学部における データサイエンス教育

国際経営学部教授
なかのじゅんじ
中野 純司

現代社会において、データサイエンスおよびAIの知識は非常に重要です。国による「AI戦略2019」においても、2025年を目標年として「文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得」するなどとなっています。中央大学では、全学組織である「AI・データサイエンスセンター」が2020年4月に設立され、全学部生を対象としたAI・データサイエンスの教育プログラムが、2021年4月より開始されることになっています。

国際経営学部では、設立当初よりデータサイエンスの重要性を認識しており、その基礎とな

る「経営統計入門」を必修科目にしています。経営を含む人間活動において、データ利用の重要性およびその不確定性に対する理解は必須であり、国際的にはデータに基づいた議論ができないと話になりません。さらに、ビッグデータが獲得・利用できる現在では、コンピュータによるデータ分析およびAI技術に対する理解がないと、先端的な活動は望めません。本学部では「経営統計入門」のほかに「データサイエンス」「データ分析」などの講義で、より進んだ知識を学習する場を設けています。そして、これらの講義ではフリーのデータ解析ソフトウェア「R」を使い、実践的な知識を学べるようにしています。

本学部の学生には、数学に対する苦手意識、あるいは拒否感を示す人が少なくありません。そのため、データサイエンス関連講義においては、数式やプログラムの意味するところを直感的に理解してもらうことを心がけています。これらの知識は英語と同じく、世界を動かす活動のための道具であり言語である、ということの本学部卒業生には理解してもらいたいと考えています。

能などを学ぶことができます。また、基本的な数学を学修する必修授業があり、そこで数字的扱いに慣れるためにたくさん問題を解きながら、経営に関する数学的分析手法まで身につけます。また、さらに数学の勉強を深めた人のために、大学数学に取り組む授業もあります。これらもすべて英語で習います。プログラミング言語に触れる機会を大学で手に入れたことによって、プログラミング言語を習うことの

やさしい

障壁がなくなり、かつ、自分でプログラミング言語の学習を始めるきっかけになりました。これらは、大学で得た学びのなかで最も自分の学習に影響したことだと思います。

本稿だけでは大学を通して自分が取り組んでいることすべてを記すことはできませんが、自分に強く影響した事柄を挙げさせていただきます。私は、

これからもたくさんの学問に触れていくと思います。それらを理解するだけでなく、自分の学習に落とし込む作業を引き続き実行していこうと考えています。

最後になりましたが、このようなすばらしい体験や機会、学習の場を与えてくれる両親をはじめ、国際経営学部の先生方や職員の方々、またその関係者の方々に衷心より感謝申し上げます。